

374 ふ頭に津波一時避難場所となる新社屋を建設

取組主体	法人番号	事業者の種類（業種）	実施地域
苫小牧埠頭株式会社	5430001053486	サプライ関連事業者 （運輸業，郵便業）	北海道

1 取組の概要

本社新社屋を地域の津波一時避難所へ

- 苫小牧埠頭株式会社は、昭和 38 年建設された旧社屋が老朽化したことを踏まえ、苫小牧西港北ふ頭の市有地を借り、平成 27 年 3 月 9 日新社屋を竣工した。新社屋は、震災・津波等の大規模災害に耐え、住民等の避難場所となることができるよう、設計されている。
- 苫小牧港は、北海道の港湾貨物の約 5 割を取扱い、後背地の産業集積も進展し、北海道経済をけん引する役割を果たしている。周辺には、様々なイベントが開催される親水公園、カーフェリーや RORO 船、クルーズ船が就航する埠頭、物流倉庫が立ち並ぶ一方、近くに津波発生時等に避難するに適切な施設がなく、港湾労働に携わる方々、公園等に来る方々、そして地域住民等の懸念となっていた。
- 旧社屋が老朽化していた苫小牧埠頭株式会社では、このような背景を踏まえ、北ふ頭に位置する市の保有地を借り上げ、ここに新たな社屋を建設することで、津波からの一時避難場所の確保へとつなげた。

2 取組の特徴（特色、はじめたきっかけ、狙い、工夫した点、苦労した点）



▲高層の本社社屋



▲社屋屋上から見た苫小牧港の風景

- 同社の新社屋は、鉄骨鉄筋コンクリート 4 階建てで、海拔約 8m の敷地に建設された。津波対策として、各階の階高を通常のビル施設よりも高く設定するとともに、4 階・屋上を津波の際の一時避難場所としている。
- 平成 27 年 3 月 18 日に苫小牧市との間で「津波一時避難施設としての施設の使用に関する協定」を締結し、7 月 3 日には、苫小牧海上保安署、当ビル 3 階に入居している苫小牧港管理組合、当社の 3 者間で「大規模災害発生時における相互協力に関する協定書」を締結した。

津波一時避難所の役割を果たすための取組

- 大規模災害時の事業継続のための本社機能維持、津波一時避難施設としての役割を果たすため、同社は以下の取組を行った。
 - ①大津波等を想定し、1階の外壁は水圧で外れる構造とし建物全体への衝撃が軽減される。
 - ②津波の影響のない4階に電気室、自家発電室、機械室、受水槽を設置。
 - ③非常用発電機は72時間電源供給可能で、受水槽は飲料水としても使用できる。
 - ④地中に汚水槽を設置し、下水道の使用が不可能となっても汚水を溜めることができる。
 - ⑤夜間、休日等建物が施錠されている際も、気象庁から津波警報が発せられた場合には、自動的に入口が開錠されるシステムを取り入れたことにより、建物内に人がいない場合も外から避難場所に入ることができる。
 - ⑥一時避難施設としての収容人数は、4階避難ホールが300人、屋上（冬季間は閉鎖）が800人となっている。



▲非常用発電機

3 取組の平時における利活用の状況

- 新社屋は、苫小牧埠頭(株)本社および苫小牧港管理組合が入居する業務ビルである。両者および行政機関が関係する会議やセミナーにも利用されており、港湾関連の企業や職員の皆様に広く利用されている。
- また、海拔25mの高さにある屋上からは、苫小牧港および苫小牧市内が360°一望でき、全国各地、海外から来られる皆様にも、視察できるよう対応している。

4 取組の国土強靱化の推進への効果

- 港湾地区は、津波等の大規模災害リスクと常に隣り合わせにいる。津波対策を施した社屋を建設することで、就業者や住民、観光による来街者等の一時避難場所となるとともに、港湾機能の事業継続性の強化につながる。これにより物流機能の迅速な復旧に資するものとなる。

5 防災・減災以外の効果

- 同社の新社屋は、行政が管理運営する港に隣接した公園の後背地にあり、建設時より、公園との親和性に配慮し、敷地周辺にマウンドを設け緑化した。公園に接する岸壁は、クルーズ船の停泊地にもなっており、公園と調和したシンボリックな建物となることを意識している。
- また、港湾関係、行政関係の各種会議、会合等も開催されており、皆様に幅広く利用される施設になっている。

6 現状の課題・今後の展開など

- 苫小牧市より一時避難施設として指定されたことを受け、市民からの認知度を向上させていく必要がある。このため、町内会や学校等を通じて、地域との接点をつくり出す活動をしている。
- 同社では、社内の取組として防災訓練等を実施しているが、地域住民や他企業と連携した訓練に今後取り組む方向である。

7 周囲の声

- 同施設は、一時避難施設として建設され、高い防災力を持っていることから地域住民にとっての安心の拠り所となった。地域住民向けに見学会等を開催することで、少しずつ認知されてきている。また公園が近所にあることで親しみやすく住民が集まる場所としても活用されていくことが期待される。(日本政策投資銀行北海道支店)
- 苫小牧市では高層建築がほとんどないため、隣接する公園等に来る観光客の津波一時避難所がないことが課題となっていた。また行政では避難タワー等を建設する余裕がないこともあり、民間企業の社屋を利用した津波一時避難施設は市民にとっての安心につながるものと期待している。(地方公共団体)